

Thames Pathの3分割

Ishikawa, Ikuji / 石川, 郁二

(出版者 / Publisher)

法政大学多摩論集編集委員会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学多摩論集 / 法政大学多摩論集

(巻 / Volume)

25

(開始ページ / Start Page)

159

(終了ページ / End Page)

194

(発行年 / Year)

2009-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007306>

Thames Pathの3分割

石川郁二

1. はじめに

Thames Pathというのは、イギリスのテムズ川沿いに設置されているfootpathのことである。Thames Pathは、テムズ川の源であるThames HeadからロンドンのThames Flood Barrierまで、ほとんど高低差のあまりないゆるやかな道で、山道のところがあると言っても、短い距離であり、それほど険しいということではない。

テムズ川そのものは全長約344 km (213 miles)¹⁾に及び、北海へと注いでいる。そのテムズ川沿いに設置されているThames Pathは、全長約290 km (180 miles)²⁾である。このThames Pathを実際に歩いて調査してみると、大きく3つに分割できることが分かった。

この論文は、「Thames Pathへの接続のために利用する交通手段」そして「Thames Pathの道自体の違い」を分析することにより、Thames Pathを3つに分割できる理由を明らかにしようとするものである。

2. Thames Pathの3つの区間

Thames Pathの全行程が、公式に180マイルのnational trailとして始まったのは1996年である³⁾。しかし、18世紀の終わりから19世紀の初めにかけて、towpath(運河側道)のシステムがテムズ川の一部の岸沿いに作られた⁴⁾。それが整備され、距離が延びて、その後、今日のThames Pathの一部になっていくのである。

コッツウォルズ丘陵にあるテムズ川の源Thames Headには、テムズ川の源であることを明記してある石碑が、大きな木のそばに建てられている(写真1)⁵⁾。テムズ川の源と言っても、常に水が出ているわけではなく、石碑だけが牧草地の端に建っているだけだ。石碑がなければテムズ川の源であることは分からない。晴



写真 1

れている時には水はなく、雨が降った時に雨水が流れているという程度である。

ロンドン市の東に位置している Thames Flood Barrier は、北海の海水が逆流し、ロンドンの町中が洪水になることを防ぐために、テムズ川に設置されている一種の水門である（写真 2）。この水門は数基あり、いつもはほとんどの水門が開いているため、大きな船舶でも通航可能になっている。ロンドン市内のテムズ川にはかつて使用された軍艦が観光客用に停泊している。このことを考えても、かなり大きな船でも航行可能であることがわかる。

Thames Path を実際に歩いて調査してみると、大きく次の 3 つに分割できる。



写真 2

Thames Pathの3分割

1. 都市型 Thames Path (約57 km, 35 miles)

Thames Flood Barrier～Hampton Court

2. 郊外型 Thames Path (約148 km, 92 miles)

Hampton Court～Oxford

3. 田園型 Thames Path (約85 km, 53 miles)

Oxford～Thames Head

このように、Thames Pathの全行程を3つに分けることができると言っても、一線を引くようにすべてのものががらりと変わり、分割する地点で明確な相違があって分けできるということではない。各区域の接点で、別のThames Pathが接続しているというわけではなく、同じThames Pathが続いているからである。

都市型、郊外型、そして田園型と言っても、当然のことながらThames Path自体は何も変わることはない。別に柵などによって分けられているわけではないのである。しかし、この3つの区域は、明らかに違う性質を持つ区域と言っても過言ではない。この3つの区分は、実際に現地調査を行って気付いたことである⁶⁾。

Thames Pathを利用している多くの人たちについて考えてみよう。実際にThames Pathで会った人たちを考えると、大きく6種類に分かれるようである。

- 1) Thames Pathの近くに住んでいる人たち
- 2) Thames Pathの近くに職場がある人たち
- 3) Thames Pathとは知らずに通過している人たち
- 4) テムズ川沿いの行事に参加し、そのついでにThames Pathを歩く人たち
- 5) Thames Pathを踏破したいと望んでいる人たち
- 6) 上記以外の人たち

である。

1) のThames Pathの近くに住んでいる人たちは、だいたいの人がThames Pathを午後の散歩に利用している場合が多い。午後2時や3時頃に散歩に出てきてThames Pathを歩き、顔見知りの人たちと会話を楽しんでいる人たちである。この人たちは、都市型、郊外型、田園型のすべてに見られる。しかし、田園型Thames Pathの近くに住んでいる人は多くないため、比率的に言えば、都市型と郊外型のThames Pathのほうが、このような利用者は多い。田園型Thames Pathは畑の脇や、整備もまだされていない所が多く、都市型や郊外型に比べると、実際に歩いてい

でも、散歩している人にあまり出会うことはなかった。ただし、村の近くでは、お年を召した方などが散歩している姿を何回か見たことはある。

2) の近くに職場がある人たちは、昼食を持参してテムズ川沿いで食べている人たちや、仕事の合間にThames Pathでジョギングを楽しんでいる人たちである。この人たちは圧倒的に都市型Thames Pathに多い。郊外型でも、Thames Pathのそばに会社や工場がある場合は、晴れた日の昼休みにThames Pathを利用している人たちがいる。しかし、これはReading近くの区間とか、限られた場所だけである。

3) のThames Pathとは知らずに通過している人たちというのは、ロンドンを訪れた観光客が多い。テムズ川沿いにはBig Benを始めLondon EyeやTower of Londonなどといった観光スポットが多い。そのような場所に行くために、Thames Pathを通ったり、横切ったりしているのである。これは当然ながら、ほとんどが都市型Thames Path利用者である。

4) のテムズ川沿いの行事に参加する人たちというのは、テムズ川沿いで開催されるお祭や、テムズ川でのレガッタ競技を見に行く人たちである。そのついでに散歩を楽しむ人たちはThames Pathを歩く。これは都市型と郊外型のThames Pathを利用している人々が多い。

5) の人たちは、Thames Pathを踏破する計画を立て、Thames Pathの端から端まで、つまり3つの区域の全行程を実際に歩きたいと望んでいる人たちである。

この人たちは大きく2つに分類できる。1つは、連続で休みが取れないため、1日に歩く区間を決め、それをつなげて全行程を歩こうとしている人たちである。もう1つの方は、Thames Pathを毎日歩いて、踏破する計画を立てている人たちである。

前者は、長い休みを取れない人たちである。例えば、筆者が会った2人組の女性である。3年間でThames Pathを踏破する計画だと言っていた。歩く日には、交通機関を利用し、前に歩いた最後の地点から歩き始めるとのことであった。この2人は家庭の主婦で、休日にThames Pathを歩き、歩き終わった場所から次回歩き始める。それらをつなげて全行程を踏破したいと言っていた。

毎日歩いて踏破する計画を立てている人たちは、あまり多くはない。筆者がThames Pathを歩いている時に会った人々の中で、リュックサックを背負い、宿泊を重ねながら歩いている人は、ほんの数人であった。出会った人たちは夏の休

Thames Pathの3分割

暇を利用して、とにかく全行程を今回踏破したい、と言っていた。その人は宿泊を重ねて歩くと言っていた。また、交通の便があまり良くない田園型Thames Pathの区域だけを宿泊して、あとは家に帰ると言っていた人もいた⁷⁾。このような人たちはリュックサックを背負い、数日宿泊できる荷物を持っている。連続して歩く人の場合には、交通手段は最初に歩き始める場所へのアクセスと、宿泊を終える次の日に、歩き終わる場所からの交通機関へのアクセスだけを考えればよいということになる。

1)～5)の人たち以外にもThames Pathを利用している人たちはいる。たとえば日曜日などに親子で昼食を持ってテムズ川沿いを訪れる人たち、子供と一緒に自転車で走っている人たち、自動車を使い、家族や友人たちとThames Path沿いにある駐車場までやってきて、バーベキューなどを楽しんでいる人たち、または通勤、通学途中に利用している人たちなどである。さらにThames Pathの一区間を歩きたいと思っている人たちで、グループでThames Pathの近くにある駐車場まで自動車でやってきて歩いている人たちもいる。

以上のような人たちの中で、この論文の「Thames Pathへの接続のために利用する交通手段」で扱うのは5)の踏破したいと望んでいる人たちの中で、宿泊をしないで歩く人たちである。その人たちはThames Pathを歩くたびに交通機関を利用するのである。

交通機関を利用してThames Pathを歩く場合に、彼らが利用する交通手段は、3つの区間によって大きく違っている。その違いを次に分析したい。

3. Thames Pathへの接続のために利用する交通手段

Thames Pathへの接続のために利用する交通手段を考えるにあたって、1日を歩き終わったらいったんThames Pathを離れ、次に歩く日には前回歩き終わった場所から歩き始める、という人たちの交通手段を分析してみたい。

Thames Pathへのアクセスは、公共交通機関としてはバス、地下鉄、鉄道がある。大雑把に言えば、都市型では「地下鉄」、郊外型では「鉄道」、そして田園型では「鉄道とバス」というのが、主な交通機関と言える。

以下に列挙してあるどの駅、どのバス停で下車しても、だいたい場所には

石 川

Thames Pathへの標識があり、Thames Pathにつながっているfootpathを歩いて、簡単にThames Pathに接続できるのである。

テムズ川は蛇行しているため、東西南北と正確に確定できない場合が多い。そのため、この論文では、北海に向かって流れているテムズ川の進行方向に向かって左側を、川の蛇行に関係なく「テムズ川の北側」と表記する。そして「テムズ川の南側」という表記は、北海に向かって流れているテムズ川の右側を意味する。明確に東西南北と判明できるところは併記しておく。また、近くに2駅ある場合はThames Pathへ接続するのに近い駅を選んでもよい⁸⁾。

(1) 都市型Thames Path (Thames Flood Barrier～Hampton Court)

この都市型では、主に地下鉄の利用が便利である。バスも利用できるが朝の渋滞時には時間がかかりすぎる。地下鉄が通っていない場所は、鉄道列車が利用できる。地下鉄の運賃は高いけれども便利であり、地下鉄の駅からThames Pathへの接続は容易である。交通渋滞に巻き込まれることもないので、所要時間が予測できるということはThames Pathを歩く上で都合がよいのである。

地下鉄の路線と駅名、そして接続できるThames Pathの場所を明記する⁹⁾。

Jubilee line

North Greenwich (テムズ川の南側、この区間のテムズ川はUの字を逆さまにしたような形で南北に流れている。駅は逆さUの字の中にあるため、テムズ川の東側と言ってもよいし西側と言ってもよい。逆さUの字の一番上から考えるとテムズ川の南側と言ってもよい位置にある。駅からThames Pathへの接続を考えるとテムズ川の東側というべき位置に駅はある。Millennium DomeであるThe O₂のすぐそばにある駅)

Bermondsey (テムズ川の南側、Cherry Garden Pierに近い駅)

Westminster (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。Houses of Parliamentのそばの駅—Circle lineとDistrict lineにもある)

East London line

Rotherhithe (テムズ川の南側、Cumberland Wharfに近い駅)

Thames Pathの3分割

Wapping (テムズ川の北側、テムズ川のそばにあり、Cumberland Wharfの対岸の駅)

Northern line

London Bridge (テムズ川の南側、London Bridgeのそばの駅)

Circle line

Tower Hill (テムズ川の北側、The Tower of Londonの北側にある駅—District lineにもある)

Monument (テムズ川の北側、London Bridgeの近くの駅—District lineにもある)

Cannon Street (テムズ川の北側、Southwark Bridgeの近くの駅—District lineにもある)

Mansion House (テムズ川の北側、歩行者用の橋であるMillennium Bridgeの近くの駅—District lineにもある)

Blackfriars (テムズ川の北側、Blackfriars Bridgeのそばの駅—District lineにもある)

Temple (テムズ川の北側、テムズ川沿いに造られているVictoria Embankment沿いの駅—District lineにもある)

Embankment (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。Victoria Embankment沿いの駅でCharing Cross 駅に近い駅—District lineとBakerloo lineにもある)

Westminster (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。Houses of Parliamentのそばの駅—Jubilee lineとDistrict lineにもある)

Sloane Square (テムズ川の北側、Chelsea BridgeとAlbert Bridgeに接続するのにはほぼ同じ距離にある駅—District lineにもある)

District line

Tower Hill (テムズ川の北側、The Tower of Londonの近くの駅—Circle lineに

石 川

もある)

Monument (テムズ川の北側、London Bridgeの近くの駅—Circle lineにもある)

Cannon Street (テムズ川の北側、Southwark Bridgeの近くの駅—Circle lineにもある)

Mansion House (テムズ川の北側、歩行者用の橋であるMillennium Bridgeの近くの駅—Circle lineにもある)

Blackfriars (テムズ川の北側、Blackfriars Bridgeのそばの駅—Circle lineにもある)

Temple (テムズ川の北側、テムズ川沿いに造られているVictoria Embankment沿いの駅—Circle lineにもある)

Embankment (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。Victoria Embankment沿いの駅でCharing Cross 駅に近い駅—Circle lineとBakerloo lineにもある)

Westminster (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。Houses of Parliamentのそばの駅—Jubilee lineとCircle lineにもある)

Sloane Square (テムズ川の北側、Chelsea BridgeとAlbert Bridgeに接続するのにはほぼ同じ距離にある駅—Circle lineにもある)

Putney Bridge (テムズ川の北側、Putney Bridgeの近くの駅)

Hammersmith (テムズ川の北側、Hammersmith Bridgeの近くの駅—Piccadilly lineとHammersmith & City lineにもある)

Kew Gardens (テムズ川の南側、この区間のテムズ川はUの字を逆さまにしたような形で南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側と言ってよい。Kew Bridgeの近くの駅—鉄道 Silverlink County and Metroにもある)

Richmond (テムズ川の南側、この区間のテムズ川は「く」の字のような形で流れているため、実際にはテムズ川の東側と言ってよい。Twickenham BridgeとRichmond Bridgeの近くの駅—鉄道 South West TrainsとSilverlink County and Metroにもある)

Thames Path の 3 分割

Bakerloo line

Embankment (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。Victoria Embankment 沿いの駅で Charing Cross 駅に近い駅—Circle line と District line にもある)

Victoria line

Pimlico (テムズ川の北側、Vauxhall Bridge の近くの駅)

Vauxhall (テムズ川の南側、Vauxhall Bridge のそばの駅)

Piccadilly line

Hammersmith (テムズ川の北側、Hammersmith Bridge の近くの駅—District line と Hammersmith & City line にもある)

Hammersmith & City line

Hammersmith (テムズ川の北側、Hammersmith Bridge の近くの駅—District line と Piccadilly line にもある)

鉄道の駅名、そして接続できる Thames Path の場所を明記する。

Southeastern

Charlton (テムズ川の南側、Thames Flood Barrier に近い鉄道の駅)

South West Trains

Richmond (テムズ川の南側、この区間のテムズ川は「く」の字のような形で流れているため、実際にはテムズ川の東側と言ってよい。Twickenham Bridge と Richmond Bridge の近くの駅—地下鉄の District line と鉄道の Silverlink County and Metro にもある)

Hampton Wick (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。Kingston Bridge に近い鉄道の駅)

Kingston (テムズ川の南側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、

石 川

実際にはテムズ川の東側である。Kingston Bridgeに近い鉄道の駅)
Hampton Court (テムズ川の南側、Hampton Court Bridgeのそばの駅)

Silverlink County and Metro

Kew Gardens (テムズ川の南側、この区間のテムズ川はUの字を逆さまにしたような形で南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側と言ってよい。Kew Bridgeの近くの駅—地下鉄のDistrict lineにもある)

Richmond (テムズ川の南側、この区間のテムズ川は「く」の字のような形で流れているため、実際にはテムズ川の東側と言ってよい。

Twickenham BridgeとRichmond Bridgeの近くの駅—地下鉄のDistrict lineと鉄道のSouth West Trainsにもある)

鉄道のSoutheasternはCharing Cross駅とVictoria駅から出ており、South West TrainsはWaterloo駅が始発駅となっている。Silverlink County and MetroはRichmondとNorth Woolwich間を走っている。

この都市型Thames Pathは地下鉄や列車を利用すれば、どの地点からでも歩くことができるし、どの地点で歩くのを止めても、それほど時間がかからずに近くの駅に着くことができる。都市型Thames Pathは交通機関への接続がとてよい区間なのである。

(2) 郊外型Thames Path (Hampton Court～Oxford)

この郊外型では、鉄道を利用する。鉄道の駅から歩ける範囲にThames Pathが存在している。ただし、Didcot Parkway駅だけは、Thames Pathに接続するまでにかかなりの時間がかかる。バスがあるのだが、時間がうまくあわないと歩くことになる。

利用する鉄道会社名と駅名、そして接続できるThames Pathの場所を明記する。

South West Trains

Hampton Court (テムズ川の南側、Hampton Court Bridgeのそばの駅)

Hampton (テムズ川の北側、テムズ川の河畔に出るにはさほど時間はかからないが、この区間はテムズ川の南側をThames Pathが通っており、北

Thames Pathの3分割

側にはない。Hampton Court Bridgeまで約2.5キロある駅)

Walton-on-Thames (テムズ川の南側、Walton Bridgeの近くの駅)

Shepperton (テムズ川の北側、Walton Bridgeの近くの駅。Walton Bridgeから、上流のShepperton Lockの近くにあるフェリー乗り場までの区間は、Thames Pathがテムズ川の両岸に設置されている。約2.5キロの距離であるが、郊外型では両岸にThames Pathが設置されている唯一の場所である。)

Staines (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の東側である。Staines Bridgeの近くの駅)

Windsor & Eton Riverside (テムズ川の南側、Windsor Bridgeの近くの駅)

Reading (テムズ川の南側、Reading Bridgeの近くの駅— 鉄道のFirst Great Westernにもある)

First Great Western

Maidenhead (テムズ川の南側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。Maidenhead Bridgeまで徒歩で約25分かかる駅)

Marlow (テムズ川の北側、Marlow Bridgeの近くの駅)

Henley-on-Thames (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。Henley Bridgeの近くの駅)

Reading (テムズ川の南側、Reading Bridgeの近くの駅— 鉄道のSouth West Trainsにもある)

Pangbourne (テムズ川の南側、Whitchurch Bridgeに近い駅)

Goring & Streatley (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の東側である。Goring Lockに近い駅)

Cholsey (テムズ川の南側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。駅からThames Pathまで歩いて約20分の距離である。)

Didcot Parkway (テムズ川の南側、この駅はThames Pathまでかなりの距離があるが、駅自体は急行も停車するため、停車列車の数が多いので便利

石 川

な駅である。Thames Pathへの接続はLittle Wittenham BridgeかClifton Hampden Bridgeに歩いていくことができるが、歩くと約2時間かかる。(バスがあるが、本数はあまり多くはない。)

Appleford (テムズ川の南側、Clifton Hampden BridgeかCulham Bridgeに接続できる。Didcot Parkway 駅より Thames Path への接続距離は少し短い、それでも徒歩で約1時間30分かかる。それはこの区間の Thames Path はテムズ川の北側を通過しており、橋があるのがかなり離れているためである。この駅は普通列車しか停車しない。)

Radley (テムズ川の南側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の西側である。この区間の Thames Path は駅側にあり、徒歩で約20分で接続できる。)

Oxford (テムズ川の北側、この区間のテムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の東側である。Oxford 大学があるため鉄道の便はとてよ。Osney Bridge の近くの駅)

鉄道の First Great Western は London Paddington 駅が始発駅である。

郊外型 Thames Path は1日の歩く距離がだいたい決まってくる。どの地点から歩き出すにしても、近い駅は1駅しかないため、歩きだす地点はある程度決まる。そして、1日歩いた後、接続する駅もだいたい決まるのである。

都市型 Thames Path はどの地点から歩き出しても、その地点までの交通機関の接続は容易である。しかし、郊外型になると自分の好きな地点で交通機関に接続できるというわけではない。

さらに言えば、昇降客が多い Oxford 駅や Reading 駅、鉄道の分岐駅である Didcot Parkway 駅以外の駅では、ロンドンから遠ざかるにつれて、停車する列車が少なくなるのである。例えば、上に述べた Appleford 駅に停車する列車の時刻表を見ると、London Paddington から Oxford 行きの列車が1日の最初に止まる時間は朝の8時00分であり、その次に停車する列車は9時00分である。9時から19時までは約2時間に1本の列車が停車する程度である¹⁰⁾。このことは、ロンドン方面に住んでいる人が Thames Path を歩き始める時間、または昼間 Thames Path を歩いて、その後、帰る時間が制限されるということである。

この郊外型 Thames Path は、歩く人が自分の都合だけを考えて、まったく自由

Thames Pathの3分割

に1日の距離を決めるということよりも、降車駅と帰りの乗車駅の区間の距離を基に、自分の歩ける距離を考慮しながら、駅を選択する区間なのである。

(3) 田園型Thames Path (Oxford～Thames Head)

OxfordからThames Headまでは、交通の便がかなり悪く、鉄道列車を降りて、すべての駅からすぐにThames Pathを歩くというわけにはいかない。鉄道の駅はOxfordとKembleの2駅が、Thames Pathの近くにあるのみで、あとの区間はOxford駅やSwindon駅からバスを利用し、Thames Pathの近くまで乗車しなければならない。このバス路線は、バスの便数が少ないだけでなく、最終バスの時間が早く、それに乗り遅れると近くのパブに宿泊するかタクシーになってしまう。

この田園型を歩く際に利用できる鉄道会社名と駅名、そしてバス会社名とバス停を明記する。

鉄道

First Great Western

Oxford (テムズ川の北側、この区間テムズ川は南北に流れているため、実際にはテムズ川の東側である。Oxford大学があるため鉄道の便はととてもよい。Osney Bridgeに近い駅。Oxford駅からThames Pathへの接続はすぐだが、これから上流に歩いていくと、バスに乗車して、その後、鉄道の駅に接続することになる。)

Swindon (テムズ川の南側。Thames Pathまではかなりの距離があるため、この駅からバスに乗車し、Thames Pathの近くまで行かなくてはならない。この町には日本のホンダの大きな工場がある。)

Kemble (テムズ川の南側。Thames Pathへは歩いて接続できる。Thames Headに行くのに近い駅で、この駅からThames Headまで歩いて行き、またこの駅に戻ってくることになる。)

バス

Stagecoach

Oxford～Swindon Toll Bridge

Oxford～Buckland Turn

Swindon～Buckland Turn

Swindon～Lechlade, Market Place

Swindon～Cricklade, High Street, Waylands

Oxfordから上流の田園型Thames Pathは、歩ける範囲で接続できる駅が2駅しかない。Oxford駅とKemble駅である。

田園型Thames Pathの一方の端であるOxfordから歩く場合は、最初はOxford駅を利用すればよいわけだが、1日歩いた後に接続できる交通機関はバスになってしまう。

田園型Thames Pathのもう一方の端であるThames Headには、Kemble駅から歩いて行き、再びKemble駅に戻ってくることができる。しかし、そのOxford駅とKemble駅から歩ける範囲以外の田園型Thames Pathは、バスを利用せざるを得ないのである。

上に記載したOxford～Swindon Toll Bridgeというのは、Oxfordから歩き出して1日の行程を終わり、Swindon Toll Bridgeというバス停からOxfordバス停までバスに乗って帰路につくということだ。次に歩く日はOxfordバス停からSwindon Toll Bridgeバス停までバスに乗車し、前回歩き終わったThames Pathの地点まで歩いて行く。その地点からThames Pathを再び歩き始めるのである¹¹⁾。

例えばSwindon～Lechlade, Market Placeならば、鉄道のSwindon駅近くにあるSwindon Bus StationからLechlade, Market Placeバス停までバスに乗り、そこからLechladeの中を通過しているThames Pathに接続して歩き始める。1日の行程の歩行距離は人によっても違うが、Crickladeまで歩くとすると、バスの停留所はCricklade, High Street, Waylandsというバス停が便利である。そこでバスに乗りSwindon Bus Stationまで戻り、鉄道のSwindon駅まで歩いて列車を利用する、ということになる¹²⁾。

田園型Thames Pathは農村を通過しており、バスの運行はそれほど多くはないし、最終バスの時間が早いのだ¹³⁾。そのため、最終バスに乗り遅れた場合はタクシーを呼ぶか、近くのバブで宿泊しなければならない。そのため、バスの時間を前もって調べておいてThames Pathを歩かなければならないのである。

Thames Pathの3分割

例えば、Cricklade, High Street, Waylandsバス停だと、平日にSwindon Bus Stationに戻る最終バスは18時25分であり、土曜日は18時33分である。ちなみに日曜日と祭日はCricklade, High Street, Waylandsバス停ではなく、Cricklade, High Street, Turning Circleというバス停を利用しなければならない。最終バスは16時33分発で、Swindon Bus Stationには16時55分に到着する。

利用するバスの時刻は、それに接続する列車の時刻とも関係があるので、列車の時刻も考えて、バスに乗車する時間を決めなければならない。ロンドンに住んでいる人ならば、夕方17時25分Cricklade, High Street, Waylandsバス停発のバスに乗ってSwindon Bus Stationに向かわなければ、ロンドン着がかなり遅くなってしまうのである。

この田園型Thames Pathは、行きに降車するバス停と帰りに乗車するバス停の間の実際に歩く距離はもちろん、鉄道とバスの時刻をも考慮しながら、1日の歩く距離を決めなければならない区間なのである。

4. Thames Pathの道自体の違い

Thames Pathはテムズ川沿いに設置されている、とは言うものの、すべての行程がテムズ川沿いに設置されているというわけではない。一部の区間は、テムズ川から少し離れた道を歩かざるを得ない。それは工場が川沿いにあったり、個人の家があったり、川岸が急こう配にせり上がっており、川沿いにPathを設置できない場所もあるからだ。

Thames Pathは、ある区間を除いて、あまり高低差のないゆるやかな道になっている。実際に歩いていても、坂道を上っている、または下っていると感じられるところはそれほど多くはない。これはテムズ川自体が高低差のあまりない川であるからだ。

Thames Pathは、Thames Flood BarrierからThames Headまで全長約290 kmである。その源であるThames Headは海拔107メートル (356 feet)¹⁴⁾しかない。長さ290 kmに対して107メートルの高低差しかないのである。しかもTeddington Lockから下流は、北海の潮の影響を受けるのである¹⁵⁾。このような事実から考えても、高低差のあまりないThames Pathが続いていることが分かる。そのため、子供たちや高

齢者たちにも歩きやすいPathとなっている。

ロンドン市内のThames Pathはほとんどテムズ川の両岸に設置されている。テムズ川の多くの場所がコンクリートで護岸工事がなされており、その工事と一緒に自動車が行き通れる道路を造ったり、散歩できる歩道を造ったりしているためである。都市であるために人口が多く、利用する人々が必然的に多いということも両河岸に設置されている一つの理由であろう。

ロンドンから郊外に出ていくと、テムズ川沿いには多くの牧草地が見られる。自然がかなり残っているのがイギリスの良さである。テムズ川沿いには一戸建ての家が多く、マンションの多いロンドンのテムズ川沿いに比べると、その分、人口は少なくなる。そのため、郊外型では、テムズ川の両岸にThames Pathを設置する必要がないのであろう。Thames Pathは片側だけであり、歩く人はほとんどころで橋を渡り、テムズ川の北側と南側に移動するようになっている。

田園型と名付けた区域は、Oxford近辺を除いて、ほとんど田舎と言ってもよい場所である。大きな畑の脇を通っている区間もある。そのようなところのPathは、最初から歩くのを楽しむという目的で造った道ではなく、畑のあぜ道と言ったほうがふさわしいPathである。区間によっては原野と思われるような中を歩くPathもある。Thames Pathの道標もないところもあり、そのような地点では、道に迷ってしまうこともある。田園型のほとんどの区間は、これから整備が必要な区域である。

(1) 都市型Thames Path (Thames Flood Barrier～Hampton Court)

都市型Thames Pathは、大部分がコンクリートに舗装されている。川岸も護岸工事が行き届いており、テムズ川の両岸にThames Pathが延びている。

Thames Flood Barrierの南側のすぐ横からThames Pathが始まる。そこから歩き始める。最初は整備された道が続いている(写真3)。ここらあたりの対岸はかなり離れており、右後ろにはThames Flood Barrierが銀色に光っている。

Pathは工場地帯へ入っていく。テムズ川の岸に船を接岸し、荷物や砂利などを降ろしているところが多い。砂利などはベルトコンベアで、右手のテムズ川からPathの上を越えて、左側の砂利置き場に運ばれていく。ベルトコンベアの下を通る時は、上から細かい砂利が落ちてくるのではないかと思うほどである。

Thames Pathの3分割



写真 3

工場地帯の中を通過しているPathは、幅が狭く、人が横に2人並んで歩くのが精一杯の区間もある。工場の中に設置されているPathには、両側に高い塀が設置されており、工場の中は見えないようになっている。

テムズ川の川沿いにPathがあり、川とは反対側が工場や建物になっているところもある。そのようなところでは、一人で歩くのは少し危ないのではないかと、と思われる区間もある。そのような場所には必ずと言ってよいほど、監視カメラがいくつも設置されている。ロンドン市内には監視カメラがあちこちに設置されているが、ここでも同様に、Pathにいる人を追跡できるように監視カメラが多い。

このような工場群の中のThames Pathを通過し、Greenwichに入ると、テムズ川の下を通っているFoot Tunnelがある。歩く人と自転車が通行可能なトンネルで、テムズ川の両岸がこのトンネルでつながれている。トンネルの中はひんやりとしており、川の水が天井から漏れているのではないかと疑われるほど、水がにじんでいる箇所もある。

Thames Flood BarrierからこのFoot Tunnelまでは、テムズ川の南側にしかTames Pathは設置されていない。

Tower Bridgeに近くなってくると、工場などはなくなる。テムズ川の北側では、マンション群がテムズ川ぎりぎりに建っているところがある。そのようなところでは、マンションの外側にPathが設置されているが、その一部では、テ



写真 4

ムズ川にせり出してThames Pathが設置されているところがある。木製のPathで、歩いていると足の下にテムズ川の水が見える（写真4）。建物の壁がテムズ川ぎりぎりに建っているため、あとからPathだけをテムズ川にせり出して作ったのであろう。

ロンドン塔からBig BenのあるWestminsterにかけては観光客が多い。特にテムズ川の南岸は観光客だけではなく、劇場に来る人や、いろいろな催し物に参加したり見物したりする人々も多い。

この南岸では「the mayor's thames festival, Rivers of the World」というお祭りも開催される。お祭りはイギリス以外の国々の人たちによる出店も多く、祭見物の人たちでテムズ川の河岸がいっぱいになる。夜暗くなるとテムズ川に停泊している船から花火が打ち上げられるのである。

昼休みには、ホワイトカラーのサラリーマンの男女が川岸で昼食を取っている光景をよく目にする。サンドイッチなどを食べている人たちや、それを横目で見ながらジョギングをしている人たちもいる。

Westminster Bridgeから上流は、観光客も減り、何かのイベントをやっている時を除いて、それほど人で混雑するということはない。

例えば、Oxford大学とCambridge大学との対抗試合で有名なボートレースが、毎年4月に、PutneyのPutney Bridge近くとMortlakeのChiswick Bridge近くの区間で開催される。開催日の午後には多くの観戦者や応援者たちがThames Path上

Thames Pathの3分割



写真5

に陣取り、飲み物や食べ物を口にしながら、ボートレースの始まりを待っている。ボートの出発地点であるPutney Bridgeの上流付近や、ゴール地点であるChiswick Bridgeの下流付近は、応援の人たちでにぎわっており、そこを歩いて通ることは難しいくらい人が多い。しかし、普段は静かなThames Pathである。

このPutney Bridgeより約900メートル上流から、南岸のThames Pathはコンクリートの舗装ではなくなる。砂利道や土の道になり、川岸もコンクリートで護岸工事をしていないところが多い。テムズ川の川面は、Thames Pathより少し低いところを流れている。

Chiswick Bridgeより上流では、Richmondあたりの人出が多く、そこら辺のThames Pathはコンクリートや石でできている。よく整備されており、清掃も常にしているようである。ここでは観光客にボートを貸す商売をしているところもある。

Richmondを少し外れると、Thames Pathはほとんど舗装ではなくなる。Kingston Bridgeあたりでは舗装がされているが、すぐに砂利道や草の道、そして土の道になってしまい、それがHampton Court Bridgeまで続いている。Hampton Court Bridgeは、Hampton Court Palaceの正門近くのテムズ川に架かっている橋である。

Hampton Court PalaceまでのThames Pathの道幅は、ある程度の広さがある。歩いている人たちがゆっくりと行き交うことができる広さである（写真5）。

テムズ川の兩岸にThames Pathがあるのは、都市型Thames Pathの中でもロンドンの中心部が主であり、都市型Thames Pathの両端になるThames Flood BarrierとHampton Court近くでは、Thames Pathは川の片方にしか設置されていない。

Thames Flood BarrierからGreenwichにあるFoot Tunnelまではテムズ川の南岸にしかThames Pathはない。

その後、Foot Tunnelから、上流のTeddington LocksのところにあるTeddington Lock Cut Footbridgeまでは、テムズ川の兩岸にThames Pathが設置されている。

このTeddington Lock Cut Footbridgeより上流にある橋は、最初がKingston Railway Bridgeという鉄道の橋である。そのすぐ上流にKingston Bridgeがあり、その上流にある橋が、先ほど述べたHampton Court Bridgeである。

Teddington Lock Cut FootbridgeからHampton Court Bridgeまで、Thames Pathはテムズ川の片側にしか設置されていない。この区間を歩いている人は、途中にあるKingston Bridgeを渡って対岸のThames Pathに出るのである。

詳しくいうと、Teddington Lock Cut FootbridgeからKingston Bridgeまでは、テムズ川の南側（実際には、この区間のテムズ川は南北に流れているため、東岸というほうが正確である）にThames Pathがある。そして、Kingston BridgeからHampton Court Bridgeまでは、テムズ川の北岸（実際には、この区間はほぼV字型に川が蛇行しているため、最初はテムズ川の西岸になり、その後、テムズ川の東岸になっている）に設置されているのである。

結局、都市型Thames Pathにおいては、歩き始めのThames Flood BarrierからFoot Tunnelまでと、この区間の最後になるTeddington Lock Cut FootbridgeからHampton Court Bridgeまでの間が、テムズ川の片側だけにThames Pathが設置されており、その両区間に挟まれたかなり長い距離が、テムズ川の兩岸にThames Pathが設置されている、ということになる。このことは都市型Thames Pathの特徴的なことと言える。

道自体に関して言えば、だいたいThames Pathは舗装されてはいるが、都市型区間の上流にあるPutney BridgeからHampton Court Bridgeまでは、住宅街の道や自動車が走行できる道路以外の区間は、舗装がされていない場所のほうが多い。そのような区間はコンクリートの護岸工事もされていないのである。

都市型Thames Pathの多くのところが兩岸にThames Pathが設置されている理

Thames Pathの3分割

由は、ロンドン市内のテムズ川がほとんど護岸工事されており、コンクリートで固められていることが大きい。これは北海の潮の干満が、ロンドン市内のテムズ川にも大きく影響していることにもよる。護岸工事がなされていなければ、満潮時には岸辺が洪水になってしまうであろう。結局、護岸工事の時に道路や歩道と一緒に設置されているのである。

両岸にThames Pathが設置されているということは、それだけThames Pathの利用度が高いと言える。ロンドンという大都市が両河岸にThames Pathを必要としていると言えるであろう。

(2) 郊外型Thames Path (Hampton Court～Oxford)

この郊外型Thames Pathは、ある程度整備されている自然の中を楽しみながら歩くことができるPathである。「都市型」と「田園型」の中間と言えるであろう。イギリスの美しい牧草地の中を通っているところが多い。

岸辺にコンクリートの護岸工事がなされていない区間がほとんどであり、テムズ川の流れは足元の少し下に位置し流れている。Thames Pathの大部分が土と砂利、そして草地の道（写真6）で、道幅はそれほど広くはない。行き交う人がお互いに少し道をよける、というくらいの道幅の区間も多い。

一部にはコンクリートで舗装されているPathもある。これはテムズ川にいくつも設置されているlock¹⁶⁾につながっている道路をPathとしている区間なので



写真6



写真 7

ある。

Hampton Court Bridgeを過ぎてテムズ川の南岸を歩いて行くと、右側にテムズ川が流れており、左側は道路をはさんで一戸建ての家が並んでいる。この区間はコンクリートの道である。この家並みを少し外れると草地のThames Pathが続いている。

牧草地が多くなると、牧草地に入るところにkissing gateがある（写真7）。このkissing gateとは、U字形やV字形をした門で、1度に1人しか通ることができない。恋人が並んで通ることができなくて離れ離れになってしまうので、お互いが横になって通過する時、キスをするというところからkissing gateと名付けられたとのことである。Thames Pathを歩いていると、馬や牛、そして羊の放牧をよく見かけるようになる。放牧されている動物が、牧草地から出ていかないようにkissing gateが設置されているのだ。

Thames Pathは、自動車やオートバイが進入できないことは言うまでもない。自転車進入可能という標識がない限り、自転車も本来ならFootpathには進入できないことになっている。しかし、自転車の前輪を上にあげて、うまくkissing gateを通過している光景を何回も見ることがある。テムズ川沿いに走ってきた自転車がkissing gateで戻らなければならないということは、サイクリングを楽しんでいる人にとっては面倒なことなのだろう。

Shepperton 駅の近くのThames Pathは、川の両岸に設置されている。距離とし

Thames Pathの3分割



写真 8

ではWalton Bridgeから上流に向かって約2 kmの区間である。この区間は、テムズ川の真ん中に大きな島がある。そのため、テムズ川は島の北側と南側に分かれて流れている。その区間だけThames Pathは両側に設置されているのである。しかし、この南側に設置されている約2 kmのThames Pathを歩いていっても、対岸に渡る橋はない。対岸に渡り、Thames Pathを歩き続けるためには、フェリー・ボートで対岸に渡る以外に方法はないのである。

Hampton Court BridgeからThames Pathはテムズ川の南側に設置されている。Walton Bridgeでテムズ川を北側に渡り、その次の橋であるStaines Bridgeまで、Thames Pathは北側を通っている。そのため、歩いて北側のThames Pathに接続するためには、この南側の約2 kmのThames Pathを進まずに、手前のWalton Bridgeでテムズ川を北側に渡らざるを得ない。そのため、テムズ川の両岸にPathがあるとは言え、都市型の両岸にあるThames Pathとは違っているのである。

Windsor Bridgeを渡り、Windsor城を左後ろに見て歩くようになると、Thames Pathの道幅は狭くなる（写真8）。写真8は上流の方からWindsor城とテムズ川を撮ったものである。写真の左側に見える河岸で、歩く小道と川面の位置がはっきりと分かるであろう。このPathを上流の方へ歩いていく時は、ほとんど川面をすぐ左手に見て歩くPathであり、草地の中の踏み固められた小道である。

観光船がゆっくりと航行している。

土の道の上に亀の甲羅模様をしたゴム製のものが敷いてある場所がある。このThames Pathはテムズの川面とすれすれの位置にあるので、雨が降ったり、川が氾濫したりすると、滑りやすい。歩いている人が滑って転ばないように、そして土壌が雨で流れないように設置されているのであろう。

Marlowの町に近くなると、レンガの建物が多い一区画がある。そのこのThames Pathはレンガの建物の間の狭い通路になっており、道は舗装されているがレンガに挟まれたその道は曲がりくねっている（写真9）。

Henley-on-Thames 駅はTwyford 駅からの支線で終点の駅である。そのHenley-on-Thames 駅の1つ手前の駅であるShiplake 駅の近くは住宅街になっている。そのこのThames Pathの一部は、家の板塀やレンガ塀の狭い道になっており、その塀に挟まれた狭い道を抜けると、左右に豪邸が建ち並ぶ並木道へとつながっている。

郊外型Thames Pathというのは、同じ道が長く続くことはない。コンクリートや石で舗装されている道があったり、砂利道があったり、草や土がそのまま踏み固められた道があったりと、それらが交互に次から次へと現れ、先へと続いているのである。そして、Pathから見える景色も、足のすぐそばに川面がある岸辺の小道、広々とした牧草地の中の道、住宅街を通過している道路、塀に囲まれた狭い通路などがある。時には、長い一軒の家がある。歩いている人の頭上にはその家の二階がつながっており、まるで短いトンネルのような道となっているところもある。

Thames Pathの全行程の中で、一番アップダウンの激しい区間がこの郊外型Thames Pathの中にある。Pangbourne 駅からGoring & Streatley 駅の間である。この区間のほぼ3分の1はテムズ川沿いから離れたところにThames Pathが通っている。Whitchurch Bridgeという有料の橋¹⁷⁾、と言っても歩行者は無料であるが、この橋を渡って真っ直ぐに歩いて行く。暫くしてThames Pathは左折する。歩いていくと道の両側は牧場になってくる。ゆるやかな上り坂が続き、その先が急な下り坂になっている。もちろん、その坂は丸太や板で整備され、階段のようになっている（写真10）。下まで降りると、今度は上り坂だ。いちばん上まで登ると、それから、ゆるい下り坂が続く。

Thames Path の 3 分割



写真 9



写真10

石 川



写真11

山の斜面にある道を歩いて行くと（写真11）、その内、左側の下の方に、テムズ川の川面が木々の間に見えてくるのである。樹木の間にも光る川面を左下に眺めながら、Thames Pathは山の斜面を徐々に下り、牧場の中の小道へと入る。そしてテムズ川にぶつかるのである。

最初の牧場と牧場の間を通っている道はコンクリートで舗装されているが、アップダウンの道になると土の道になり、山道を過ぎると、草地の道へと変化していく。

Whitchurch Bridgeからテムズ川を離れ、再びテムズ川の岸边に戻るまでの距離は約2.2 kmであろう。他の区間にはない自然の中のアップダウンのはげしいPathである。

Goring Lock（写真12）でテムズ川を渡り、しばらく歩くと湿地帯にでる。そこに木製の橋があり、この橋にstile（柵などにある、人が越えられるようにした踏み段）がある（写真13）。写真のstileは、Thames Flood BarrierからThames Pathを歩いてくると、初めて目の前に現れるものである。このような踏み段がついた柵も、kissing gateとおなじように、牛馬や羊が逃げ出さないように設置されているものである。

Cholsey 駅から歩きだして、Benson Lockで橋を渡りThames Pathは対岸にでる。このLockのところに架けられているテムズ川を渡る橋は、歩く人専用の橋で、行き交う人が体を少し横にしなないとお互いに通れないほどの幅である。テムズ

Thames Pathの3分割



写真12



写真13

川を川の上から眺めるPathも楽しいものだ。

駅に近くなると、舗装された道になるが、それ以外のThames Pathは、踏み固められた砂利道や牧草地であり、土や草の匂いが感じられる道である。リクリエーションとして、自然をある程度満喫し、楽しみながら歩くのには、郊外型Thames Pathが一番適しているのではないかと思われる。

(3) 田園型 Thames Path (Oxford～Thames Head)

Oxfordより上流のThames Pathは、まだ荒削りの自然が残っている、自然美に満ち溢れた区間である。

田園型Thames PathのOxford寄りを歩いていると、川岸にSummer houseが建っているところが多い。夏だけ利用する家で、持ち主はロンドンに住んでいるのであろう。川岸にボートを収納するBoat houseもよく見かける。このような区間のThames Pathはテムズ川の岸すれすれに通っているところが多い。

牧草地の中を歩いていると、牛の糞によく出くわす。こんもりと土が山になっているところはモグラの掘った穴の土である。

雑草が背の高さより上まで茂っているところがある。Pathの左右から覆いかぶさるようにせり出して雑草が続いている。草を刈ることもなく、自然のままの状態、ここはThames Pathとしての整備がなされていない区間である。

ところどころにThames Pathの標識はあるのだが、分岐点に標識がないところもあり、地図を見てもはっきりしないことがある。

場所によっては、これがThames Pathなのか、と疑ってしまうほどである。そのようなところのPathは、道とも呼べないもので、都市型や郊外型にはまったく見られないPathが田園型にはある。

整備された区間もあるのだが、畑の端を歩いていかなければならない区間もある。そうかと思えば、自動車が走る道路の端、それも歩道というようなものではなく、単に草が生えているだけという道路の端を歩かなければならない区間もある。

村の近くを通っているThames Pathは、一応整備はされているが、それでもコンクリートで舗装されているというより、砂利や土を踏み固めた道のほうが多い。

湖や沼の間をThames Pathが通っている区間がある。CrickladeとEwenの間にある湖や沼が多い地域である。大きな沼の脇を通っているPathや、歩いている道の左右に大きな水面が現われるところがある。舗装などは当然されていない道で、踏み固められた土と草の道である(写真14)。

整備されている区間もある。Ewenという村のThames Pathの一区画には、木片が敷きつめてあった。木を細かくしたチップ状のもので、歩いていると弾力

Thames Pathの3分割



写真14

があって足に優しい道である。

テムズ川の川幅はThames Headに近づくにつれ狭くなっていく。若いテムズ川がそこにはあり、さらに上流へと足を踏み入れると揺籃期のテムズ川が現われてくる。

Thames Headまでの道は牧草地を通って行く。Thames Headが近くなると道もなくなる。牧草地に放牧されている牛を見ながら歩いていくのである。歩いている人の近くへ牛が寄ってくることもある。

Thames Headにある石碑のところには、水の湧き出ているところはなく、雨が降れば雨水が低い方へ流れていくだけのことであり、そこが公式にテムズ川の誕生の地となっている。

田園型Thames Pathは、自然がそのまま残されているところがあちこちにあり、まだ開発されていない区間が多い。将来に向けて、整備をしていかなければならないThames Pathがまだここには存在しているのである。

5. むすび

テムズ川は全長約340 km (213 miles) に及ぶが、Thames Pathは全長約290 km (180 miles) である。その行程には、イギリス最大の観光地であるロンドン、そしてその中でも、世界中に知られているBig Benやロンドン塔が目にとまる区間もある。

れば、イギリスの静かな生活が今も感じられるロンドン郊外、そして、将来にわたって発展する可能性の大きな、田園の中を通っているThames Pathもある。

Thames Pathというのは、テムズ川の一方の岸沿いにだけ設置されているとは限らない。都市部ではほとんど、Thames Pathがテムズ川の両岸に設置されている。そこではさまざまな人々がそれぞれの目的でThames Pathを利用しているのである。

このThames Pathは、ほんの一部を除いてほとんど高低差が感じられないような、なだらかなPathが続いている。そして、すべての行程が同じような道ということではなく、コンクリートや石で舗装された部分もあれば砂利道もあり、草地の中を通る小道もあれば、土が踏み固められてできた樵路のような道もある。

このようなThames Pathを、「Thames Pathへの接続のために利用する交通手段」そして「Thames Pathの道自体の違い」という観点から調べてみると、大きく3つに分割されることが分った。

1. 都市型Thames Path (約57 km, 35 miles)

Thames Flood Barrier～Hampton Court

2. 郊外型Thames Path (約148 km, 92 miles)

Hampton Court～Oxford

3. 田園型Thames Path (約85 km, 53 miles)

Oxford～Thames Head

都市型Thames Pathでは接続する交通の便はとてもよい。ほとんどの区間がコンクリートで舗装されており、歩く環境は整っている。昼食時にはテムズ川の河畔で食事をしている人たちもいるし、お祭りの時は多くの出店が並び、「歩く」という目的以外で利用されていることも多い。この都市型Thames Pathはすでにロンドンという大都市に飲み込まれたThames Pathとも言えるのである。

郊外型Thames Pathは、ある程度整備はされているが、自然がまだ残されたPathである。交通の便は都市型には及ばないとしても、1日に歩ける距離に鉄道の駅があるところが多い。駅がThames Pathより遠いところも一部あるが、その場合にはバスを利用することもできるようになっている。人がリクリエーションとして楽しみ、自然の憩いや癒しをも期待できるfootpathとしては、郊外型Thames Pathが一番適しているようである。

田園型Thames Pathは荒削りの自然が多く残っているfootpathである。交通の便

Thames Pathの3分割

は3つの中では一番よくない。前もってバスの時刻表などを調べておかなければ、近くの鉄道の駅まで出るのに大変なことになってしまう。まだ整備の進んでいない区間が多く、そのため、整備があまりなされていないだけに、将来にわたって開発できる可能性を一番秘めている区間とすることができるのである。

以上

(この論文は、法政大学の2007年度在外研究により出来たものである)

注

- 1) Bowden, 6. 『新英和大辞典』第六版(研究社)によれば、1 mileは1,609.3メートルとなっているので、213 milesは342.7809 kmになる。しかし、本論文の数字は、参考図書の数字をそのまま使う。
- 2) Hatts, *THE THAMES PATH*, 7. 『新英和大辞典』第六版(研究社)の数字によって計算すると、180 milesは289.674 kmになる。
- 3) Hatts, “Introduction” of PUB WALKS ALONG *The Thames Path*, 6.
- 4) Emmons, 9.
- 5) 石碑には次の英文が書かれている。

THE CONSERVATORS OF THE RIVER THAMES

1857-1974

THIS STONE WAS PLACED HERE TO MARK THE
SOURCE OF THE RIVER THAMES

- 6) 都市型Thames Path、郊外型Thames Path、そして田園型Thames Pathと3つに分割できる理由は、この論文で扱っている「Thames Pathへの接続のために利用する交通手段」と「Thames Pathの道自体の違い」以外にも分析できる。他の分析結果は、今後、発表する予定である。
- 7) イギリスで会った人たちに、「Thames Pathを歩いたことがあるか？」と聞いたところ、歩いたことがあると答えた人が多かった。しかし、「全行程を歩いたのか？」との問いかけには、ほとんどの人が「全行程ではない。OxfordからThames Headのほうは歩いていない」との返事であった。
- 8) *Big London A-Z*そして*Thames, the river and the path*を参照した。ロンドン市内のThames Pathを歩くときはA-Zの地図が参考になった。*Thames, the river and*

*the path*の地図はThames Pathを歩く時に常に携帯し、参考に使っていた地図である。

- 9) 地下鉄の路線は“London Underground, Tube map, July 2007”を参照にした。
- 10) Appleford 駅に停車する列車の時刻を参考までに載せておく。これらの列車は平日に運行される London Paddington 駅発 Oxford 駅行きと、Oxford 駅発 London Paddington 駅行きの列車である。この時刻表は First & Great Western 社が出している“Train Times”（2007年9月10日～12月8日）による。

London Paddington	→→→	Appleford
06:30		08:00
07:30		09:00
09:30		10:48
11:30		12:48
13:30		14:48
15:30		16:51
17:30		19:00 (Banbury 行きの列車)
18:18		19:31
19:17		20:48
20:30		21:51
21:29		23:00
23:29		00:50

Appleford	→→→	London Paddington
06:30		08:10
07:36		09:11
08:11		09:46
10:32		12:00
12:32		14:00
14:32		16:00
16:32		18:00
18:02		19:30
19:32		21:00

Thames Path の 3 分割

21:01

22:37

23:08 →→→ 23:46 (この列車はReading行きである)

- 11) London Paddington 駅から Oxford 駅までの運賃 (2007 年) を参考までに書いておく。往復切符の金額は、朝 10 時頃に購入すると 17.50 ポンドで、朝 7 時頃に購入すると割引がないため 39.30 ポンドである。朝 7 時頃の列車には、割引引き切符で乗車はできない。ロンドンの Victoria Coach Station から発車する長距離バスを利用すると Oxford までの往復切符は 14.00 ポンドと安い。
- 12) ロンドンを朝出発して、田園型 Thames Path の Lechlade, Market Place バス停から Cricklade, High Street, Waylands バス停まで歩くとすると、かかる運賃は、London Paddington ~ Swindon 往復切符が早朝で割引がなく 90.00 ポンド (2007 年) になる。早朝にロンドンを出発しなければ、Thames Path を歩く時間がかなり短くなり、帰路のバス停まで歩くことができなくなる可能性が大きいのである。この割引のない切符は高いが有効期間は 1 ヶ月間である。Swindon から乗るバス代はだいたい 2 ポンド前後であり、合計 94 ポンド位の交通費がかかることになる。
- 13) 参考までに Swindon ~ Cricklade, High Street, Waylands の平日のバスの時刻を載せておく。この時刻表は Stagecoach 社が出している “Swindon bus times 51” による。

Swindon	→→→	Cricklade, High Street, Waylands
07:05		07:26
08:20		08:41
09:20		09:41
10:20		10:41
11:20		11:41

日中は各時間とも Swindon 20 分発、Cricklade, High Street, Waylands 41 分着

17:20		17:41
18:20		18:41
19:20		19:41

Cricklade, High Street, Waylands →→→ Swindon

石 川

06:32	07:00
07:22	07:50
08:00	08:40
09:25	09:50
10:25	10:50

日中は各時間とも Cricklade, High Street, Waylands 25分発、Swindon 50分着

15:25	15:50
16:25	16:50
17:25	17:50
18:25	18:50

- 14) Emmons, 14. 『新英和大辞典』第六版（研究社）によれば、1フィートは30.480センチメートルとなっているので、356フィートは108.5088メートルになる。107メートルという数字は、1フィートを概算で30センチメートルとして計算し、106.8メートルを四捨五入して出した数字かもしれない。しかし、本論文の数字は、参考図書の数字をそのまま使う。いずれにしても Thames Headは108メートル前後の高さである。
- 15) Emmons, 128.
- 16) Lockとは「閘門(こうもん)」のこと。閘門とは、川の高低差のある水面を、水量を調節して船を昇降させる装置のある水門のことである。
- 17) Whitchurch Bridgeの通行料金は、2007年5月には自動車20ペンス、自転車2ペンスであった。

参考文献

Big London A-Z, New Edition 2007, Exeter, UK: Geographers' A-Z Map Company Ltd., 2007.

Bowden, Rob, *Settlements of the River THAMES*, Chicago: Heinemann Library, Reed Elsevier Inc., 2005.

“bus times 51, from 1 January 2007,” Stagecoach, 2007.

“bus times 64 74 75 76, from 1 April 2007,” Stagecoach, 2007.

“bus times 65 66, from 29 August 2006,” Stagecoach, 2006.

Thames Path の 3 分割

Cove-Smith, Chris, *The River Thames Book*, Singapore: Imray Laurie Norie & Wilson Ltd., 2006.

Emmons, Ron, *Walks along the Thames Path*, London: New Holland Publishers (UK) Ltd., 2001.

Goldsack, Paul, *River Thames in the Footsteps of the Famous*, Connecticut: The Globe Pequot Press Inc., 2003.

Hatts, Leigh, PUB WALKS ALONG *The Thames Path*, Newbury, Berkshire: Countryside Books, 2002.

Hatts, Leigh, *THE THAMES PATH*, Milnthorpe, Cumbria: Cicerone Press, 1998.

“London Underground, Tube map, July 2007,” Transport for London, Mayor of London, 2007.

River Thames & the Southern Waterways, Waterways Guide 7, Hong Kong: Nicholson, 2006.

RIVER THAMES, A Visitor's Guide, Kent: J Salmon Limited.

Schneer, Jonathan, *THE THAMES, ENGLAND'S RIVER*, London: Abacus, 2006.

“Swindon bus times 51, from 1 January 2007,” Stagecoach, 2007.

Thames, the river and the path, 4th Edition, Reading: GEO Projects, 2006.

“Train Times, 10 September to 8 December 2007,” First & Great Western, Updated edition, 2007.

Weightman, Gavin, *London's Thames*, New York: St. Martin's Press, 2005.

Wright, Patrick, *THE RIVER, The Thames in Our Time*, London: BBC Worldwide Ltd., 1999.

岩崎 広平 1994 『テムズ河ものがたり』晶文社。

大野 敬子 2004 『テムズの流れに乗って 英国より心をこめて』早川書房

岡本 誠 2004 『テムズ川ウォーキング—オックスフォードからウィンザーまでの120キロ—』春風社

小川 和彦 2006 『テムズ川 橋ものがたり』武蔵野書房

ガヴィン・ウェイトマン[著]、植松 靖夫[訳] 1996 『テムズ河物語』東洋書林。

石 川

- 木村 治美 1978 『静かに流れよテムズ川』文藝春秋
櫻井 正一郎 1984 『写真と文によるロンドン文学案内』大阪教育図書。
平松 紘 2001 『イギリス緑の庶民物語』明石書店。
平松 紘 2002 『ウォーキング大国イギリス』明石書店。